

小牧の防災について考える タウンミーティング



- 実施報告書 -

概要

日時・場所

令和2年2月1日(土) 午後2時30分から午後4時30分
小牧市役所 大会議室

参加者

小牧防災リーダー会の皆さん、小牧災害ボランティアネットの会の皆さん

事務局

広報広聴課

市長あいさつ

今日はお忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。
近年、災害が多発しており、最近では、台風 15 号や 19 号の被害、大変大きなものでございました。また、地震災害、そして集中豪雨など、各地で甚大な被害が相次いでいます。

小牧市も、いつ何時大きな災害に見舞われるかわからないという、そんな緊張感の中で、様々な形でこれまで防災力の強化に努めてきたところでございます。

国・県においても防災の計画の見直し作業をずっと進めており、市もそれに連動する形で、様々な課題に対して、よりきめ細かな対策を打てるように、これまで議論を深めてきているところです。

市民の皆さんにおかれましても、近年は災害に対する関心も高くなってきていると感じております。

市民参加の防災訓練について、自治会や小学校区等のご協力を得ながら、さらに進めているところですが、やはりこういったことを市民に広く啓蒙、啓発しながら、さらなる機運の醸成をしていかなければならないと思っております。

本日は限られた時間でございますが、災害、防災ボランティアとして活動されている皆様方の貴重なご意見を率直にお寄せいただきながら、市としてもまたしっかりと努力を積み重ねてまいりたいと思っております。

また、皆様方を初め、多くの関係者、市民に協力体制、連携体制を密にしていけるような、そんなまちづくりを進めてまいりたいと思っておりますので、本日は何とぞよろしくお願い致します。

各グループの意見まとめ

「災害時に感じる不安や困ること」について意見を出し合い、「それを解決するためには、どのような方法があるか（もしくはあると思われるか）」という内容で、自助・共助・公助の3つの視点から考えていただきました。

A グループ

- ・ 小中学校周辺の道路が狭い
- ・ 小牧市で起きる可能性大の災害は、台風、地震、火事
- ・ 市民病院に通じている道が狭い。混乱大
- ・ 道路把握、交通整理、市民の協力体制
- ・ 体の小さい人からお年寄りまで、食料が行き渡るようになったらいい

- ・ 弱者にとっていい環境の避難所の建設はないのか
- ・ 災害弱者の確認と誘導
- ・ 避難所を増やす
- ・ CDデッキによるラジオ放送情報の提供（30台以上あるため）
- ・ 身体が凍えないように毛布とか避難所にあったら
- ・ 掲示板の作成（行方不明者の発見を早めるため）
- ・ 正確な情報発信、デマを防ぐ
- ・ 教員リーダーの育成
- ・ 子どもの活用
- ・ 体が不自由な人や子どもなどを優先して行動する
- ・ 体育館に避難して地震や台風が過ぎるのを待つ
- ・ 災害ごみ運搬場所
- ・ トラック、軽トラの確保
- ・ 人員運搬にタウンバス活用（駅→支援センター→災害地）
- ・ 市が準備出来る資材は何か
- ・ 寄附物品等の仕分け、分配をスムーズに
- ・ 市の災害対応状況、対策の公開
- ・ 準備不足、備蓄6割
- ・ 体育館を避難所として開放
- ・ 体育館という避難場所に食料や水があつたらいい
- ・ 感染症対策、隔離制は
- ・ 女性の協力、女性目線の必要性
- ・ 臨機応変に行動ができるか、マニュアルにこだわり過ぎない
- ・ 災害弱者対応マニュアル作成（具体的に）
- ・ 給食時に使っているアルコール消毒液の提供
- ・ 図書室にある本の読み聞かせ（小さい子ども対象）
- ・ 若者、中・高・大学生ボランティア育成
- ・ 校区地図から安全な場所の把握
- ・ 体が不自由な人等を優先して逃げさせる
- ・ 電気やガスを止める
- ・ 支援センターの設置場所（市役所とアピタ駐車場の利用）
- ・ 避難所運営で2～3人でリードして分けるものなのか？
- ・ 小牧市は安全な町と思っている
- ・ 小中学校の防災教育が必要

- ・ 学区等の防災計画が不十分
- ・ 子ども合唱団、避難者の癒し
- ・ マイ・タイムライン
- ・ 自主防災（地区）の訓練
- ・ 災害を小さくする方法（防災意識）
- ・ 防災意識が希薄化している
- ・ 自主防災意識不足
- ・ 障がい者の防災訓練参加ができていない
- ・ 外国人の防災訓練参加ができていない
- ・ 避難所を開いてリードして行く人の育成は？その方法は？
- ・ 在日外国人、特に小中高生の活用（通訳ボランティアとして）
- ・ 近所の人との交流、ネットワークづくり
- ・ 自宅での地震対策をしていない人が多い。より良いPRは？

【私はこうしたい】

- ・ タンスなどの家具が倒れても安全なところに行く
- ・ 体が不自由な人や子どもなどを優先して行動する
- ・ 皆と協力する
- ・ 日々、災害対策を心がける
- ・ 今、いる場所から一番近い避難場所に災害に気づいていない人と一緒に逃げる
- ・ 自分だけではなく、高齢者などの体が不自由な方の助けをしていきたい
- ・ 朝早くに災害が起きた時、呼びかける
- ・ 自分の命も他の人の事も考えて行動することを意識する
- ・ 障がい者へのサポート
- ・ ドアや窓を開けて逃げ道を作る
- ・ 地震が起きたら危ない物をしまい、ガス栓を閉める
- ・ 安全なところに避難して自分の身を守る

【まとめ】話し合いを通して、一番伝えたい内容

- ・ 自分の身は自分で守る
- ・ 体験型防災訓練の実施
 - ① 回数を多くし、地域性を考えた訓練
 - ② 福祉会、子ども会、老人会を入れる（参加させる方法を）
 - ③ 地域協議会の防災部会に専門知識のあるボランティアを入れ

る（⇒不足⇒リーダー養成）

- ④ 実情に合った防災計画（タイムライン）マニュアル
- ⑤ 緊急車両が通行出来る様な、交通規制を含めた訓練
- ⑥ ドローンの活用

B グループ

【テーマ①】災害時に感じる不安や困ること

【避難所について】

- ・ 避難所の食料、水、薬がない
- ・ 避難所の対応等
- ・ 寒い時の防寒
- ・ 避難所の運営

【日頃の備えについて】

- ・ 3日分 多くの市民が備えていないかも
- ・ 日頃の備えが役に立つか（食料、家具固定）
- ・ 食料品の確保

【家屋の被害・ライフラインの被害について】

- ・ 家の倒壊
- ・ ライフラインが止まったらどうしたら良いか

【人的被害について】

- ・ 近所の方がケガしたらどうしたら良いか
- ・ 家族の安否
- ・ 家族への連絡

【ペットについて】

- ・ ペットをどうするか

【避難行動の要支援者について】

- ・ 避難行動時、要支援者に対し本当に支援できるか
- ・ 1人暮らしの高齢者どう扱うか
- ・ 要支援者の方をどうするか（障がい者）

【災害ボランティア支援センターについて】

- ・ 災害ボランティア支援センターを本当に立ち上げられるか
- ・ 災害ボランティアが本当に来てくれるか

【テーマ②】それを解決するためには、どのような方法があるか

自助	・ 自分の事は自分で備える
共助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区防災訓練のブラッシュアップ ・ 地域協議会で家具固定班の編成を促す ・ 備品が揃っていない ・ 立ち上げ訓練での市の姿勢に疑問がある
公助	<p>(日頃の備え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬の管理 ・ トイレの凝固剤 ・ 家具の固定を消防署が手伝ってくれる <p>(支援センター開設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライフラインが駄目になる。安全な道路が分からない。 → 近所の被害状況確認 ・ 社協に力がない

【まとめ】話し合いを通して、一番伝えたい内容

(日頃の備え)

- ・ 令和2年の年間通した広報 PR
 - ・ 備え品のメニューガイドブック
- (支援センター開設)
- ・ 必要な備品の準備する
 - ・ 地域協議会のテーマに
 - ・ 災害ボランティア経験者を把握する
 - ・ 災害ボランティア活動の交通費を助成する
 - ・ ボランティアの宿泊代を出す
 - ・ 市役所がもっと訓練に力を入れる

Cグループ

【テーマ①】災害時に感じる不安や困ること

- ・ 災害時に公園が使用できるか
- ・ ふれあいセンター以外の集合場所
- ・ ふれあいセンター使用できるか
- ・ 分かっているがやる暇がない
- ・ 災害に対し余り感じない
- ・ 災害に対して意識がない

- ・ 避難所に行けるか
- ・ ライフライン
- ・ 学校避難所のトイレ2つは適切か
- ・ 学校に行けるか
- ・ 職場から帰れるか
- ・ 災害時の逃げ道の確保
- ・ 災害通報手段、防災放送の導入
- ・ ボランティアに参加できるか
- ・ 家族の安否
- ・ 町内の人の顔が見えない
- ・ 食べ物が心配
- ・ トイレが使えるか
- ・ 健康面
- ・ 道路が通れるか
- ・ 家族の生活の不安
- ・ 年寄りが多くなっている
- ・ 避難所の充実
- ・ 備蓄用の水がない場合どこで供給するか

【テーマ②】それを解決するためには、どのような方法があるか

自助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族で話し合い ・ 安否確認と集合場所 ・ 家族で集合場所を決めておく ・ 家族各自がしっかり行動 ・ (マンション) 扉の解放 ・ 避難所までの道を日頃から通っていく ・ 避難したかの有無 (目印) ・ 防災行事にできるだけ参加 ・ 家を出るときにガスの元栓、電気のブースターを切る ・ 避難所に行ってみる ・ ブロック塀の撤去 ・ 7日分の備蓄食料の確保 ・ 食料品の確保 ・ 電池の確保
----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の確認 ・ 家具固定
共助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所付き合いを深める ・ 近所の話し合い ・ 町内で地区の散歩 ・ 近所との良い関係 ・ 危険個所の確認 ・ 隣同士のあいさつ ・ 隣同士で誘い合って逃げる ・ 扉を破るためボール等の道具と協力者 ・ 逃げないで助ける ・ 避難所確認 ・ 施設の確認 ・ 防災訓練 ・ 災害弱者への自治会等での手助け（組織づくり） ・ 近所でやれる行事を ・ できるだけ情報が欲しい
公助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の運営 ・ 小中学校での災害教育を充実 ・ 役所の人も防災訓練に積極的に出て欲しい ・ 連絡番号を控えておく ・ 水害における高所避難所の指定 ・ 橋の補強 ・ ブロック塀の倒れを事前にチェック ・ 電柱の安全性 ・ 電柱の地下化 ・ 道路整備 ・ 自販機の補強 ・ 会館の耐震化 ・ 会館からの放送 ・ 現金の引き出し ・ 簡易トイレの充実 ・ 災害情報の整備、放送

【まとめ】話し合いを通して、一番伝えたい内容

防災について家族で話し合いを深め、近所の付き合いを広げましょう。

防災訓練に参加!!

D グループ

【テーマ①】災害時に感じる不安や困ること

【ライフラインについて】

- ・ 今後の生活への不安
- ・ 病院は大丈夫だろうか
- ・ 孤立。家は大丈夫でも周りの道路は？
- ・ 日常生活、ライフライン
- ・ ライフラインの分断
- ・ 道路の分断

【施設について】

- ・ 発災時、避難所足りるのか
- ・ 災害時の避難場所
- ・ 避難場所の問題
- ・ 家の倒壊
- ・ 子どもの帰宅
- ・ 自宅へ戻れない
- ・ 高齢者（施設利用者）の帰宅
- ・ 子どもたちの教育は

【食料について】

- ・ 明日からの食料は
- ・ 緊急時の食料、飲料

【その他】

- ・ 日本は大丈夫だろうか
- ・ 住宅耐震化、家具固定は十分されているか
- ・ 応援要請の仕方
- ・ 市役所職員と一体となった支援センターの立ち上げ訓練
- ・ 日頃の訓練が重要、今の小学校区訓練で十分か
- ・ 支援センターの設置場所
- ・ 社協3Fの支援センター設置場所に不安
- ・ いざ災害となって、防災対策が本当に機能するか

【テーマ②】それを解決するためには、どのような方法があるか

<p>自助</p>	<p>(ライフライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段から道路の調査 ・ 自家用発電機 (ソーラー含む) ・ 飲料水の確保 ・ 電池備蓄 (ライト、電話) <p>(施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の確認、事前調査 ・ 家具固定 <p>(食料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3日分～1週間分のローリングストック
<p>共助</p>	<p>(ライフライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の井戸の調査→増設 ・ 地下水の活用 <p>(施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営訓練→確実実施 ・ ボランティアの養成→数、スキル <p>(食料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倉庫の内容を充実、確認 (自主防) ・ 食料の充実を各地で実施 ・ 上記2つを指導する
<p>公助</p>	<p>(ライフライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の早期発信 ・ ライフラインの複線化 ・ 小牧市に住む人の職員採用 <p>(施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所開設の策定 (安全な) ・ 支援センター開設場所の選定 (社協?) ・ サテライト広域配置 ・ 立ち上げ訓練に市の職員参加 ・ 全職員の意識の向上 <p>(食料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倉庫の内容を充実、確認 (行政)

【まとめ】話し合いを通して、一番伝えたい内容

- ・ 自分が、家族が生き残れるか
- ・ 近隣住民と仲良く
- ・ 訓練、ボランティアへの積極的参加

生き残るため、隣人と仲良くし、ボランティア活動に参加しようヨシ！

E グループ

【テーマ①】災害時に感じる不安や困ること

- ・ 防災訓練
- ・ 支援センターの設置（場所、日、備品）
- ・ ボランティア
- ・ 避難所
- ・ 避難所の生活
- ・ 小学校区地域、協議会等にて防災訓練をしているが現場で実践するのは無理
- ・ 防災グループ連絡会（企業、行政）
- ・ コミュニティ倉庫の器具、工具が少ない
- ・ 家族の安否
- ・ 家族と連絡が取れない
- ・ 避難所の収容について（人数が少ない）
- ・ 家の破損
- ・ 家が壊れたらどこへ逃げればいいのか？
- ・ 学校の子どもの帰宅方法（危ないので学校に残す。この方が安全では）
- ・ 被災状況
- ・ ライフライン
- ・ ライフラインの停止
- ・ 水道が止まってトイレが使えない
- ・ 停電した場合いつ復旧するか
- ・ ガスが出ない、風呂に入れない
- ・ 食料、水の不足
- ・ 非常食はあるか（どこに）分からない
- ・ 火事

【テーマ②】それを解決するためには、どのような方法があるか

<p>自助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人暮らしの人や要援護者、障がい者の人の被災対応（避難所を出たあと） ・ 非常食の備蓄 ・ 非常持出と家庭備蓄 ・ 家具の転倒防止（耐震対策） ・ 非常用熱源の確保（カセットコンロ、石油ストーブ） ・ 保険の加入 ・ 親戚やNPOとで「助けて」連絡網を作っておく
<p>共助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黄色いハンカチ作戦 ・ 避難所の受付で確認 ・ 家の片づけはボランティア ・ ご近所の助け合いの為にコミュニケーションをとる（あいさつ、掃除、宴会） ・ 防災ネットワークの作成 ・ 支援センターに被災者への困りごとを依頼 ・ 地域の若者参画 ・ 自治会で訓練の徹底
<p>公助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要援護者のリスト ・ 災害時はみな被災者なので、大変なことを啓発 ・ 防災グループ、企業、行政との防災連携とそのあとの連絡会 ・ 避難所のバリアフリー ・ 避難指示のPR ・ 防災グッズ提供（1人暮らしの人に対してお金でなく物で） ・ 災害時通報システム設置 ・ 防災ガイドブックのPR ⇒ ハザードマップの見直し ・ 避難所の数を増やす ・ 要援護者向けに防災無線 ・ ボランティアが来てくれる準備する。「支援センター」づくり

【まとめ】話し合いを通して、一番伝えたい内容

要援護者についての対応

- ・ 発災後は公助に期待できない～共助できる組織づくりを進める～訓練、教育

- ・ 事前に自助に努力して頂く
防災ガイドブックを活用して行動できる様に勉強会を行う

フリートーク

- ◎ 巡回バスを食料やボランティアを運搬することに使ってはどうか。

<市長>

運転手が確保できれば、それも可能ではないかと思います。運転手さえ確保できれば、市が所有するバスも利用可能となる。

宅配業者との協定を結んでいるので、日頃からその業務に精通している業者だからこそわかるノウハウを活用できればと考えています。

- ◎ 通訳について

外国人高校生が多くいるので彼らに通訳として活躍してもらってはどうか。そのような場で活躍できれば、彼らの自信にもつながると思う。

- ◎ 若い力の活用

高齢者は、今日のようにいろいろ想定して考えたりアイデアを出したりすることはできるが、実際の現場で身体を使って作業をすることは難しい。仕分け等、実際の現場で身体を使ってすることは、たくさんある。そのような場に若い力が必要となる。若い力を活用できるよう、市と学校が連携していただくことも必要。

<市長>

通訳については、外国人高校生に活躍していただけるなら、ありがたいことであるので、貴重なご意見として受け止めさせていただきます。

近年では、自動翻訳機の精度も高くなり、市の窓口業務においても試験的に利用を始めたところです。

- ◎ 小牧市には、空港が近くにあるという強みから、災害時に、空から広報してはどうか。

<市長>

広報車や SNS での広報。登録されている方に対しては FAX 等での情報提供を行っていく。

空港の活用については難しいものがあるが、市でドローンを購入した。現在、それを活用するため、現在、職員の養成も行っている。また、今後、ドローンの運転に関して協定も結んでいけたらとも考えている。災害時にドローンも有効利用できたらいい。

- ◎ 災害ボランティア支援センターの立上げ訓練を行っているが、社協職員、市職員の参加がない。訓練時から、参加していただき、いざという時に

備えたい。

<市長>

この件のことは危機管理課へ伝えさせていただく。

市長からお礼のあいさつ

本日は皆さんから、色々なお話をうかがい、大変参考になりました。

小牧市の防災体制も完璧ではありませんので、今日頂いたご意見も含めて、調査、検討をしていきたいと思えます。本日は、ありがとうございました。